

5 教材化のために

このロックを導入部で活用する授業案を作ってみた。

ミネアポリス近辺のミシシッピ川の様子を想像させる。

アメリカ大陸を縦断する川であることを地図上で押さえた上、最上流部からミネアポリスまでの距離を計測し、予想をさせる。

ロックの様子を説明し、なぜこのような施設が必要か、考えさせる。

このような施設の必要性は、活発な水上輸送によって生じている。ここから、広い国土をもつアメリカ合衆国の水運が見えてくるのではないかとと思われる。



右の写真はバージを説明するもので、ロックの壁面に展示されていた。穀物などを大量に輸送できることが書かれている。

左の写真は水運の有効性を示したものである。1艘のバージは、貨物列車ならば15台分、トラックならば58台分に相当し、一度の大量の物資を運ぶことができることを説明している。

このような水運が発達したのは、穀物など大量の物資を作り出し、それらを大量に消費するからである。日本でも川幅が太ければ、上流部まで船が上ることができるのだが、日本の河川の状況から考えれば不可能である。水運を通して、日本との違いが見えてくるだけでなく、アメリカの姿、広大さも見えてくるのではないかとと思われる。

この導入の後にアメリカの農業などを学習すれば、より実感を伴って理解できるのではないかと考える。